

北海道コカ・コーラ・トリック 株式会社・北海道・石狩市の取組

【会員同士の連携による取組】

| | |
|------------------------|---|
| 取組のタイトル | 北海道コカ・コーラ・北海道博物館・石狩市 共催 望来浜にて海岸漂着物調査を実施 |
| 取組の時期 | (始期) 令和5年10月～ 継続中 |
| 関連するSDGsの ゴール・ターゲット |   |
| 取組内容 | <p>当取組は、石狩市と北海道博物館、当社の共催で初めて開催したもので、当社従業員や地域の方々が海岸漂着物から自然の多様性を理解し知識を深められる機会を創出するほか、調査データを蓄積し学術研究などに活かしていくことを目的とするもの。</p> <p>望来浜は、日本海を北上する対馬暖流の影響で、北海道では珍しい南方系の生物などが漂着物として打ち上げられる場所で、自然の多様性を理解する上で適しているとして開催場所を選定。</p> <p>今回は、海岸に縦 30m×横 50mの範囲を設定し、範囲内にある生物やごみを収集し観察・調査しました。</p> <p>参加者： 北海道博物館学芸員、石狩市（いしかり砂丘の風資料館学芸員・自然保護課）、当社従業員 ほか</p> |



〈チームごとに拾った漂着物を分類〉



〈分類した後は項目ごとに数・量を記録〉



〈調査結果についてもその場で解説〉



【調査の結果】

自然物では、ムラサキイガイ、マガキを主体とする貝類が 10 種程度確認された他、稀にメノウ（鉱物）も確認されました。

人工物では、プラスチックが最も多く、次いで発泡スチロール、ガラス・陶器が確認されました。

プラスチック製品に着目すると、個数・重量共に80%以上が陸域（日常生活系）由来であり、残りの20%は漁具ということが判明し、改めてプラスチック製品のリサイクルやリサイクル推進活動の大切さを認識しました。

【取組を実施しようと考えた「きっかけ」や「経緯」、苦労した点】

| | |
|-------------------------|---|
| <p>「きっかけ」 や「経緯」</p> | <p>清涼飲料メーカーとして海洋汚染問題に取り組む責任があると考え、従業員への環境問題への課題認識醸成を目的に、2019年より毎年10月に当社主体の海岸漂着物調査を開始しました。</p> <p>得られた調査データを環境課題の解決にむけて有効活用頂ける手段を模索する中、この度北海道庁の環境生活部に所属する北海道博物館から、北海道の学術研究（生物多様性）に活用させるための調査連携協力の依頼を頂き、当年より北海道（北海道博物館）、石狩市（自然保護課）を加えての共催として実施に至りました。</p> |
| <p>苦労した点</p> | <p>道内で海岸漂着物に関する専門機関や識者との関係構築</p> |